

## パンクロックによって若者が獲得する効能に関する研究

1230525 藤田佳樹

指導教員 小谷浩示

### 研究背景

パンクロックはその暴力的な歌詞やサウンドから一部の人々から非行を助長するものだと  
言われてきた。しかし、その音楽性は社会への怒りや不満などを現実的に解決する術がない、  
そんな人たちのために表現される、実は社会問題に真摯に向き合った音楽とも言えるので  
はないだろうか。

### 研究目的

本研究を通じて、パンクロックが一つの音楽として社会的役割があることを提唱したい。ま  
た、パンクロックを聴くことで若者はストレスが低減、もしくは創造性が高まることを考察  
として研究を進めた。

### 研究方法

大学生 88 名を対象に実験室実験を行い、Between subject design を採用した。Control 群  
にはクラシック、Treatment 群にはパンクロックを鑑賞させた。分析のために、質問票調査  
に加え、脈拍測定と先行研究から用いたストレス反応尺度を用いてストレスを計測した。得  
たデータから統計要約・図式化・回帰分析によって定性的・定量的に分析を行なった。

### 分析結果

脈拍には Control 群と Treatment 群の間に差はなかった。創造性については、Control 群に  
比して、Treatment 群の被験者の創造性が高まっていたが回帰分析から、男女比の差が結果  
に影響を及ぼし創造性について頑健な結果が得られなかった。

### 考察・結論

Treatment 群において女性の割合が高く、且つ、その女性たちの創造性が非常に高まったこ  
とが研究結果に影響を及ぼしたと言える。このことから、本研究ではパンクロックによる効  
能は認められなかった。しかし、より研究に時間と労力をかけ、サンプルサイズや男女比の  
コントロールをすれば、仮説に基づいた結果を示唆できたであろう。